

奈良県大淀町文化財調査報告書 第5集

大淀桜ヶ丘遺跡

—— 桜ヶ丘浄水場整備工事にともなう埋蔵文化財の調査 ——

2008年3月

奈良県大淀町教育委員会 編

例　言

- 1 本書は、大淀町水道部桜ヶ丘浄水場整備工事にともなう大淀桜ヶ丘遺跡（奈良県吉野郡大淀町下渕 所在）の埋蔵文化財試掘確認調査報告書です。
- 2 大淀桜ヶ丘遺跡の試掘確認調査は、奈良県大淀町教育委員会が2007年11月8日から11月22日の計15日間（実質11日）で実施しました。
- 3 本書で用いた高度は絶対標高（T.P.）を示し、方位は磁北を示します。
- 4 本遺跡の発掘調査ならびに本書にかかる整理作業と本書の編集・執筆は、奈良県教育委員会ならびに奈良県立橿原考古学研究所のご指導のもと、奈良県大淀町教育委員会生涯学習課文化財技師 松田 度がおこないました。なお、本書で報告した出土遺物は、奈良県大淀町教育委員会が保管しています。
- 5 発掘調査および整理作業、本書の作成に際して、以下の方々からご支援・ご協力をいただきました。記して感謝申し上げます（敬称略・順不同）。

大淀町水道部 大淀町立大淀桜ヶ丘小学校 殿村三平 森脇裕義 今西基温
株式会社アイシー 安西工業株式会社

目　次

I 調査にいたる経緯	2
1 調査地周辺の環境 2 調査にいたるまでの協議 3 調査の方法と調査区の設定	
II 調査の成果	3
1 基本層序 2 遺構と遺物	
III まとめ	6
写真図版	7

挿図・図版目次

挿図

- 1 調査地(大淀桜ヶ丘遺跡)周辺図 2 桜ヶ丘遺跡 2007年調査 遺構・遺物実測図

図版

- 01 調査前(北から) 02 1トレンチ(西から) 03 2トレンチ(西から) 04 2トレンチ溝1(写真中央:東から) 05 2トレンチ溝1埋土出土のサヌカイト剥片 06 2トレンチ落ち込み3(北から) 07 2トレンチ落ち込み3出土遺物(左:鉄製品 中・右:サヌカイト剥片) 08 3トレンチ(東から) 09 4トレンチ掘削後(東から) 10 5トレンチ(東から) 11 6トレンチ(東から) 12 6トレンチ煉瓦列(東から) 13 煉瓦列 近景(南から) 14 煉瓦列の一部(南から) 15 煉瓦に残された刻印 16 煉瓦列と落ち込み1(北西から) 17 落ち込み1(西から) 18 落ち込み1(北西から) 19 落ち込み1南壁(北から) 20 落ち込み1出土の安山岩剥片(石礫か) 21 落ち込み1出土のサヌカイト剥片 22 落ち込み1西側地山上面出土のサヌカイト剥片 23 6トレンチ落ち込み2埋土出土のサヌカイト剥片 24 6トレンチ地山上面出土の石礫 25 6トレンチ地山上面出土のサヌカイト剥片 26 6トレンチ落ち込み2東側出土 棒状製品か 27 6トレンチ出土の陶磁器 28 7トレンチ北半部(南から) 29 7トレンチ南半部(北から) 30 7トレンチ出土石器 31 現地説明会風景1 32 現地説明会風景2

I 調査にいたる経緯

1 調査地周辺の環境

奈良県の南部に位置する吉野郡は、奈良盆地とは竜門山塊を隔て、吉野川流域に小規模な扇状地を有する地域です。吉野川は、周囲の各山塊より水流を集め、西流しながら蛇行を重ね、やがて和歌山県の境界にいたって紀ノ川と呼ばれ、紀淡海峡へと太平洋へとその流れをそいでいます。このような環境のもと、調査地点は吉野川中流域に面した、標高175m前後の扇状台地に位置しています。行政区としては、奈良県吉野郡大淀町下測地内にあります。

調査地点は大淀町水道部の敷地に西接し、大淀町立大淀桜ヶ丘小学校の東側に位置しています。

また小学校の西側には奈良県立大淀高等学校が、周辺には現在民家と畠が広がっています。これらを含む約20万平米の土地が、奈良県遺跡地図に「大淀桜が丘遺跡」として登録されています。

当地一帯は、大正から昭和初期にかけて、縄文時代の土器や石器を主体とし、また少量ですがそれ以降の土器も採集できる遺跡として、森本六爾、直良信夫、樋口清之らによって報告されていました。昭和50（1950）年、大淀町立大淀第二小学校（現桜ヶ丘小学校）の北東地点において、グラウンド拡張工事により多量の土器が出土したこととあわせ、末永雅雄による指導のもと、奈良県教育委員会（以下、県教委）による発掘調査が実施されています。

調査の結果、表土下30cmに縄文時代の包含層が残っており、その下の地山（黄褐色土）に掘り込まれた大小の竪穴式住居跡（A地点）や石器製作場とみられる溝状遺構（C地点）がみつかりました。ほかに見つかった直径60～80cmの土坑は、内部から灰や木炭片、被燃した礫の出土もみられ、炉跡と推定されました。またこの調査で、縄文時代前期の指標土器とされる爪形文を基調とした北白川下層式土器が出土しています。

上述のように縄文時代前期を中心とする集落跡として著名となった当遺跡では、これまでにも奈良県立権原考古学研究所（以下、研究所）、当町教育委員会（以下、町教委）により数回の試掘調査が実施されています（図1）。これを一覧にすると、以下のようになります。

1. 下測遺跡として認知（1920年代～）
 2. 大淀第二小学校グラウンド拡張工事にともなう範囲確認調査（県教委：1950・51年）
 3. 大淀高校南西・南和労働会館建設の事前調査（研究所：1986年）
 4. 大淀桜ヶ丘小学校体育館ならびに仮設体育館設置工事の事前調査（研究所：2001年）
 5. 大淀桜ヶ丘小学校改築工事にともなう試掘・確認調査（町教委：2005・2006年）
- 2001年以降の調査では、縄文時代の遺構・遺物は、わずかな出土をみただけでしたが、2005年の調査で、近世前期および近代の遺構が当地に残存している事も判明しました。



図1 調査地（大淀桜ヶ丘遺跡）周辺図

(S=1:10,000)

2 調査にいたるまでの協議

町水道部が計画した桜ヶ丘浄水場整備工事について、町教委は平成18（2006）年1月に事前のボーリング作業とともに立会調査を実施しました。この結果、当敷地内では、平成17（2005）年11月の試掘調査と同様、縄文時代の遺構の残存状況はよくないだろうとの見通しを得ました。

それをうけ、平成19年4月2日付けで大淀町水道部より提出された届出に基づき、町水道部の依頼を受け、町教委の文化財技師を調査員として、工事にともなう試掘・確認調査を実施する事となりました。

3 調査の方法と調査区の設定（図1・2）

発掘調査業務と遺跡の基準点測量に関しては、町教委が作成した仕様書に基づく民間業者委託での実施とし、その他必要な調査記録の作成は調査員が実施する事としました。

また、従来の当遺跡内での調査結果をふまえ、工事予定区域内の埋蔵文化財包蔵地を広くカバーするかたちで調査区の設定を行いました。

調査区については、前述のとおり遺跡の現状把握を目的として、工事予定地内に試掘調査区（以下、トレチ）を設定しました。遺構の検出を目的として幅4mのトレチを工事位置にあわせてほぼ東西方向に設置し、遺構面を確認しながら地山まで掘削することとしました。南北方向には調査区域を横断する幅1.5～4mのトレチを1本設置し、同じく遺構面を確認しながら地山までの掘削を計画しました。

結果、造成工事の激しい箇所、および著しい造成工事が行われていると予測できる箇所については、重機で地山面を確認するか、高さ2mを超える造成の場合には、安全確保のため写真撮影後早急に埋め戻しを行いました。都合、設定した7箇所のトレチのうち、実際に調査を実施したのは1～3、5トレチの一部と、6・7トレチです。

また調査区の周囲にGPS測量による基準点を2点取得し、これにあわせて4m角のグリッドを調査区全域にかぶせ、調査区と遺構実測の基準としました。なお、調査区内の実測はすべて調査員の手実測によりました。

II 調査の成果

1 基本層序（図2）

本遺跡の基本層序は、2001・2005年の調査に準拠し、上位より第I～III層に大別しました。

第I層（図2-1～5）はグラウンド表上、碎石と旧グラウンド整地土、旧校舎関連の堆積層です。

第II層（図2-6～7）は旧耕土の影響をうけた暗褐色の地山部分と遺物包含層、遺構の埋土を含みます。

第III層（図2・8）は基盤層となる黄褐色の地山です。過去の調査で確認されている縄文時代前期の遺構は、この上面で検出されています。

今回の調査では、第I層を重機により掘削し、第II層を人力掘削および精査の対象としました。結果、今回調査を実施した工事予定地内では、ほぼ全域で地山まで校舎造成時の整地土（第I層）が堆積し、第II層の堆積がほとんど確認できなかったため、基本的には第III層上面までを重機掘削とし、検出した遺構について人力掘削としました。

2 遺構と遺物

a 遺構（図2）

1～5・7トレンチ

調査区北半にあたる1～3トレンチでは、後世の造成工事により削平が激しく、明確な遺構を確認できませんでした。ただし2トレンチで、Ⅱ層の堆積土およびそれに類似する硬質の黒褐色粘土を埋土とする落ち込みを2箇所検出したので、落ち込み3、溝1としました。落ち込み3および溝1からは、ガラスの破片とともにサヌカイトの剥片3点、鉄製品1点が出土しました。

調査区中央部にあたる4・5トレンチは造成が激しく、4トレンチについては安全確保のため、重機掘削により工事造成の深さを確認したのち、埋め戻しました。5トレンチについては地山が確認できたため、埋め戻す前に土壟断面等の記録を取得したのち、埋め戻しました。

6トレンチ

6トレンチ南壁ぎわのⅢ層上面（地表下約1m）で、Ⅱ層を埋土とし、礫を多く含む落ち込みを2箇所検出しました。落ち込み1は、調査区外の急斜面に向かって落ち込んでゆく形状で、東西約5m、南北約1m、深さ約0.5mを、落ち込み2は東西1.5m、南北1m、深さ0.3mを検出しています。落ち込み1からは9点、落ち込み2から1点のサヌカイトの剥片が出土しています。なお、この落ち込みについては、剥片以外の遺物（土器等）が出土しておらず、詳細な時期を決めることができませんが、剥片の形状などから、縄文時代に埋没したものと判断しました。

また当トレンチの地表下0.5mで、東西方向にのびる耐火煉瓦を用いた建物基礎を検出しました。幅は0.33m、長さ13.5m以上で西の調査区外へと伸びます。この基礎は盛土上に礫を敷き、コンクリートの基礎を流し込んだ後、その上に煉瓦を積み上げる構造となっています。その煉瓦のほとんどには菱形の刻印が残されており、短辺と長辺を交互に積む「イギリス積み」の工法が一部確認できました。桜ヶ丘小学校の沿革史などを手がかりにすると、大正末期から昭和初期に建てられた第二小学校（第二尋常高等小学校）の最初期の校舎の一部である可能性が高いです。

b 出土遺物（図2-1～3）

出土遺物には、石鐵、サヌカイト剥片、鉄製品、陶磁器があります。

【石鐵】 確実に石鐵とわかるものは、6トレンチ地山上面出土の1点です。ほぼ正三角形に近い四基式のもので、ほぼ完形です。長さ1.75cm、幅2.0cm、厚さ0.35cm、重さ2g。サヌカイト製です（3）。他に、6トレンチ落ち込み1出土の剥片（2）も、欠損が激しいため形状はわかりにくいですが、石鐵の可能性があります。重さ1g、安山岩製です。

【剥片】 サヌカイトの剥片は24点あり、その大半は6トレンチの落ち込みからと、同Ⅲ層上面（落ち込み1付近）精査中の出土（合計19点）です。これらはそのほとんどが、長さ2cm以下の、二次的剥離や使用の痕跡を認められない剥片です。なお、6トレンチ以外では、3トレンチ落ち込み3から2点、同溝1から1点、同精査中に剥片が1点、7トレンチ掘削中に、細かい二次的剥離の入る長さ4cm、重さ4gの削器（1）が1点、出土しています。

【その他の石製遺物】 落ち込み2付近のⅢ層上面で出土した棒状の結晶片岩製品があります。長さ5cm、厚さは0.2cm。ただし、人工物か、人為的に持ち込まれたものか、判断は困難です。

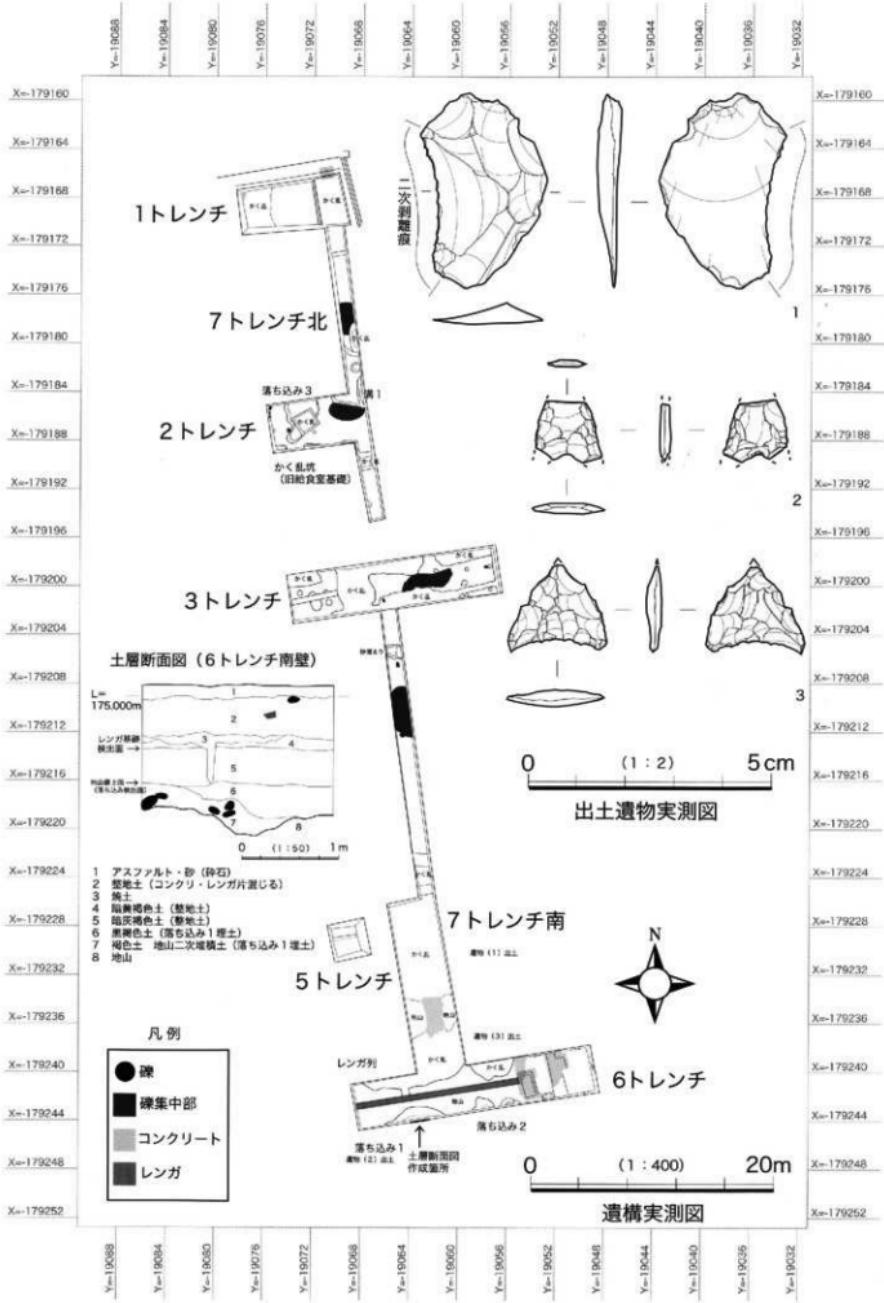


図2 桜ヶ丘遺跡2007年調査 遺構・遺物実測図

【近代以降の遺物（鉄製品および陶磁器）】 落ち込み3出土の鉄製品は破片です。企容は不明ですが、釘の一部かとみられます。1点出土。陶磁器は、6トレンチの掘削時に出土しています。近代以降の磁器（描繪茶碗ほか）、昭和初期の陶器製容器の一部と考えられるものです。3点出土。

IIIまとめ

今回の調査を含め、工事にともなう近来の試掘調査により、縄文時代以降、江戸時代から現在にいたる当地の利用変遷が明らかになりつつあります。

2005年の調査で確認された、現在の小学校グラウンド地内を東北東方向に横断していた里道の遺構、各トレンチでみつかった建物跡や柱穴群と、サヌカイトの剥片、江戸時代の錢貨や鉄・青銅製品、陶磁器、昭和の一錢銅貨は、当地の土地利用が戦後になってから激変した様子を我々に示してくれます。さらに昭和30年代から40年代にかけ、調査区一帯は小学校の敷地として拡幅され、コンクリート建築の建物が新築・改築され、グラウンドの大規模な造成もおこなわれました。校舎が火事で焼けた後、ぶ厚い整地の行われた痕跡も、今回の調査区内でみつかっています。

調査区南端では、造成工事に運よく取り残された状態で、煉瓦積みの基礎部分を確認できました。昭和初期ごろに使われていた当時の小学校の校舎の一部と判断してよいものです。

近代の煉瓦造りの建造物は、当町においてもほとんど残っていません。地中に埋没している煉瓦から、当時の産業史、教育史を垣間みるよい調査となりました。

また、調査中、見学におとずれた年配の方などは、旧校舎の痕跡を見学しながら、桜ヶ丘小学校に通っていた昔の子ども時代を思い出して、石鎚などを拾った記憶があるとの話をしてくれました。現在、石鎚や土器の破片を小学校内でほとんど見ることはできませんが、周辺を詳細に観察したところ、造成のおよんでいない敷地の周辺部には、土器の細片や、サヌカイトの剥片が散在しているようです。

今回の調査では、調査区南端で、良好なかたちで縄文時代の落ち込みが残っていたことを確認できました。このように造成工事の及ばない敷地の周辺部には、当該時期の遺構がまだ遺存している可能性が高いといえます。

なお、2007年11月21日には、6トレンチでみつかった縄文時代の落ち込みと石器、近代の煉瓦基礎について現地説明会を開催し、桜ヶ丘小学校の児童100人を含む約120名の参加を得ました。

今後、当遺跡については、今回の調査結果をふまえて、奈良県内の縄文時代前期を代表する遺跡として、また、隣接する小学校教育の歴史を物語る遺跡として、その保護と活用に役立ててゆくことが、現代に生きる私たちの使命といえます。

<参考文献>

奈良県教育委員会（小島俊次）「大淀桜ヶ丘遺跡」『奈良県史跡名勝天然記念物調査抄録』第十三輯 1960年。

大淀町史編集委員会編『大淀町史』大淀町役場 1973年。

大淀町立大淀桜ヶ丘小学校編『百年史』桜ヶ丘小学校百周年記念事業実行委員会 1975年。

松山真一「大淀町大淀桜ヶ丘遺跡発掘調査報告書」『奈良県考古学研究』第1分冊 1986年度 奈良県立橿原考古学研究所 1989年。

大淀町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所（春岡亮之）編『大淀桜ヶ丘遺跡 試掘調査報告』大淀町文化財調査報告 第3集 2003年。



01 調査前（北から）



02 1トレンチ（西から）



03 2トレンチ（西から）



04 2トレンチ溝1（写真中央：東から）



05 2トレンチ溝1埋土出土のサヌカイト剥片



06 2トレンチ落ち込み3（北から）



07 2トレンチ落ち込み3出土遺物
(左：鉄製品 中・右：サヌカイト剥片)



08 3トレンチ（東から）



09 4トレンチ掘削後（東から）



10 5トレンチ（東から）



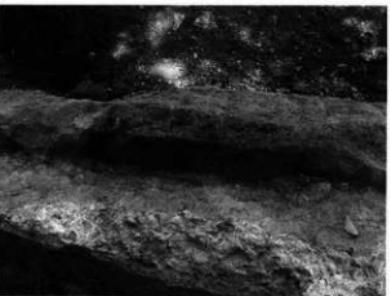
11 6トレンチ（東から）



12 6トレンチ煉瓦列（東から）



13 煉瓦列 近景（南から）



14 煉瓦列の一部（南から）



15 煉瓦に残された刻印



16 煉瓦列と落ち込み 1（北西から）



17 落ち込み1（西から）



18 落ち込み1（北西から）



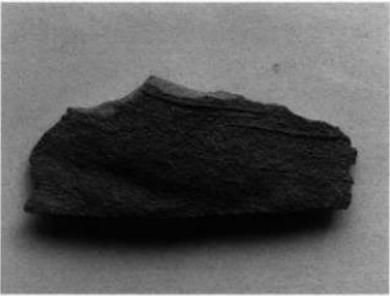
19 落ち込み1南壁（北から）



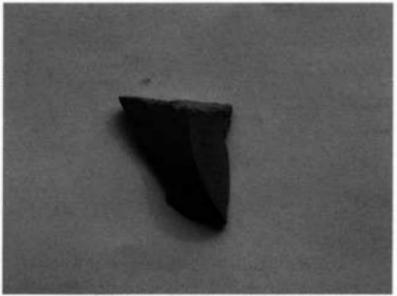
20 落ち込み1出土の安山岩剥片（石鎌か）



21 落ち込み1出土のサヌカイト剥片



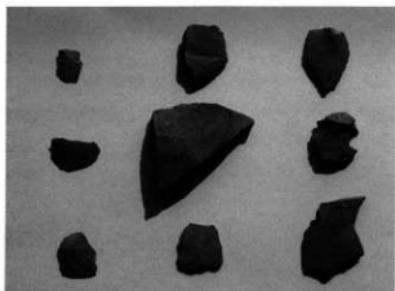
22 落ち込み1西側地山上面出土のサヌカイト剥片



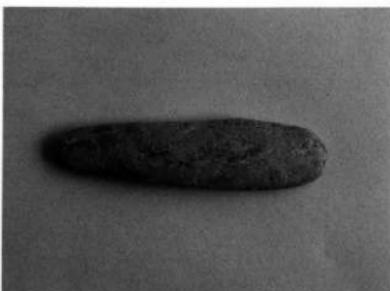
23 6トレンチ落ち込み2埋土出土サヌカイト剥片



24 6トレンチ地山上面出土の石鎌



25 6トレンチ地山上面出土のサヌカイト剥片



26 6トレンチ落ち込み2東側出土 棒状製品か



27 6トレンチ出土の陶磁器



28 7トレンチ北半部（南から）



29 7トレンチ南半部（北から）



30 7トレンチ出土石器



31 現地説明会風景1



32 現地説明会風景2

報告書抄録

ふりがな	おおよどきくらがおかいせきーさくらがおかじょうすいじょうせいひこうじにともなうまいぞうぶんかざいのちょうさ...						
書名	大淀桜ヶ丘遺跡						
副書名	桜ヶ丘浄水場整備工事にともなう埋蔵文化財の調査						
巻次							
シリーズ名	奈良県大淀町文化財調査報告書						
シリーズ番号	5						
編著者名	松田 度						
編集機関	奈良県大淀町教育委員会						
所在地	〒638-8501 奈良県吉野郡大淀町桧垣本2090番地						
発行年月日	2008(平成20)年3月19日						
ふりがな 遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大淀桜ヶ丘遺跡	奈良県吉野郡大淀町桧垣本・下渕	29442	34° 23' 04"	135° 47' 34"	2007.11 .8~22	400	桜ヶ丘浄水場の整備工事
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大淀桜ヶ丘遺跡	集落	縄文・近代	縄文時代の落ち込み、昭和初期の建物跡	縄文時代の石器、近現代の陶磁器・鉄製品			

大淀桜ヶ丘遺跡	
—桜ヶ丘浄水場整備工事にともなう埋蔵文化財の調査—	
奈良県大淀町文化財調査報告書 第5集	
編集 奈良県大淀町教育委員会	
〒638-8501 奈良県吉野郡大淀町桧垣本2090番地	
印刷 岡本印刷所	
〒639-3126 奈良県吉野郡大淀町新野342-2	
発行 2008(平成20)年3月19日	

memo